

第1号様式

令和7年度 第3回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 担当国会議 議事録																			
日時	令和8年3月3日(月) 14:00 ~ 16:30																		
開催場所	保土ヶ谷区役所地下会議室																		
出席者	<p><事務局>石田(夢21)、小堀・井上(保土ヶ谷区役所高齢・障害支援課)、平良(保土ヶ谷区生活支援センター)、島田(ほどがや希望の家)、戸村(恵和めぐみ)、村瀬(保土ヶ谷区社協)、田中(わおん相談支援事業所)、田村・遠藤・月見(保土ヶ谷区基幹)</p> <p><各部部长(担当者)></p> <p>金井(ゆめわーく:自主製品販売)、竹内(当事者活動)、早坂(きてん:当事者活動)、葛西(銀河和田町:精神net)、矢田(生活支援センター:まちで暮らす)、山下(ゆめのね:こども)、中戸川(たちばな会:防災)、相原(恵和相談室:相談)、力石(トラック:ほっとらんど) ※15:50まで、野口(活動ホームゆめ:お仕事フェア)</p> <p><拠点事業所></p> <p>武田(保土ヶ谷介護事務所)、野口(活動ホームゆめ)、佐野(恵和青年寮) 若山・福田(たちほほどがや)、田中(わおん相談支援事業所)、相原(恵和相談室)</p>																		
欠席者	増元(保土ヶ谷区役所こども家庭支援課)、鈴木(すみれ園)、樋口(のぼら園)、居木(活動ホームゆめ(計画))、佐藤(希望の家:地域支えあい研修)、																		
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ 非公開 記録:																		
議題	<p>司会進行:保土ヶ谷区生活支援センター 議事録:希望の家</p> <p>1. はじめに、自己紹介、拠点整備計画の共有(司会より) 資料に沿って説明 / 14:00-14:15</p> <p>2. 各部部长(担当者)より活動報告と次年度計画/14:15-15:15 報告は「市域で共有・検討したい課題」や「シェアしたい取り組み」について特に共有したい事を中心に報告。計画は特に力を入れたいことやトピックスを中心に報告。(詳細は資料を参照)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">報告と計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務局</td> <td>拠点整備計画の策定に市の積極的な関与と拠点整備コーディネーターの配置などを求める。自立協の活動とほっとらんどまちづくりの連動、区民とのつながりなど、顔の見える関係を築きながら区内の連携や地域づくりを行う。</td> </tr> <tr> <td>全体会・担当者会議</td> <td>自立協の各部会、全体会、担当国会議が拠点整備計画と連動する仕組みが定着。ネットワークを活かして地域課題の抽出のための部会横断的な仕組みなどを検討し具体的な解決に踏み出していく。地域づくりのために他分野・多職種との連携の関係を築いていく。</td> </tr> <tr> <td>精神 net</td> <td>事例検討でアイデア出しや成功事例の共有、退院後の先が見えるよう日中活動やGHの様子の動画の制作などに取り組んだ。関係者同士のつながりのさらなる強化、相談部会とのコラボなどを行う。</td> </tr> <tr> <td>ほっとらんど</td> <td>経験の場、社会参加、地域活動としてほっとらんど活動を周知し、安定した活動が出来るよう連携を図り、可能な限り開店日を増やしていく。</td> </tr> <tr> <td>自主製品</td> <td>新たに3事業所が加わり17事業所で、区役所、イオン、浄水場、星川駅、ケアプラザのイベント、新たにビジネスパークでの販売活動を行う。</td> </tr> <tr> <td>当事者</td> <td>聴覚障害者向けの電話リレーサービス講座や初夢祭りへの参加などを行なった。区制100周年事業への協力や啓発活動、福祉教育との連携を図る。</td> </tr> <tr> <td>防災</td> <td>被災地障害者センター横浜ほどがやの周知、区から寄付のあった多品目の防災備蓄物資の管理や使用訓練、防災研修、他部会とのコラボなどを行なう。</td> </tr> <tr> <td>まちで暮らす</td> <td>他部会と共催の事例検討、GH見学会・意見交換会、地域支えあい研修の共催、短期入所・SS情報交換会などを行ない、「まちで暮らす」を考える。</td> </tr> </tbody> </table>	報告と計画		事務局	拠点整備計画の策定に市の積極的な関与と拠点整備コーディネーターの配置などを求める。自立協の活動とほっとらんどまちづくりの連動、区民とのつながりなど、顔の見える関係を築きながら区内の連携や地域づくりを行う。	全体会・担当者会議	自立協の各部会、全体会、担当国会議が拠点整備計画と連動する仕組みが定着。ネットワークを活かして地域課題の抽出のための部会横断的な仕組みなどを検討し具体的な解決に踏み出していく。地域づくりのために他分野・多職種との連携の関係を築いていく。	精神 net	事例検討でアイデア出しや成功事例の共有、退院後の先が見えるよう日中活動やGHの様子の動画の制作などに取り組んだ。関係者同士のつながりのさらなる強化、相談部会とのコラボなどを行う。	ほっとらんど	経験の場、社会参加、地域活動としてほっとらんど活動を周知し、安定した活動が出来るよう連携を図り、可能な限り開店日を増やしていく。	自主製品	新たに3事業所が加わり17事業所で、区役所、イオン、浄水場、星川駅、ケアプラザのイベント、新たにビジネスパークでの販売活動を行う。	当事者	聴覚障害者向けの電話リレーサービス講座や初夢祭りへの参加などを行なった。区制100周年事業への協力や啓発活動、福祉教育との連携を図る。	防災	被災地障害者センター横浜ほどがやの周知、区から寄付のあった多品目の防災備蓄物資の管理や使用訓練、防災研修、他部会とのコラボなどを行なう。	まちで暮らす	他部会と共催の事例検討、GH見学会・意見交換会、地域支えあい研修の共催、短期入所・SS情報交換会などを行ない、「まちで暮らす」を考える。
報告と計画																			
事務局	拠点整備計画の策定に市の積極的な関与と拠点整備コーディネーターの配置などを求める。自立協の活動とほっとらんどまちづくりの連動、区民とのつながりなど、顔の見える関係を築きながら区内の連携や地域づくりを行う。																		
全体会・担当者会議	自立協の各部会、全体会、担当国会議が拠点整備計画と連動する仕組みが定着。ネットワークを活かして地域課題の抽出のための部会横断的な仕組みなどを検討し具体的な解決に踏み出していく。地域づくりのために他分野・多職種との連携の関係を築いていく。																		
精神 net	事例検討でアイデア出しや成功事例の共有、退院後の先が見えるよう日中活動やGHの様子の動画の制作などに取り組んだ。関係者同士のつながりのさらなる強化、相談部会とのコラボなどを行う。																		
ほっとらんど	経験の場、社会参加、地域活動としてほっとらんど活動を周知し、安定した活動が出来るよう連携を図り、可能な限り開店日を増やしていく。																		
自主製品	新たに3事業所が加わり17事業所で、区役所、イオン、浄水場、星川駅、ケアプラザのイベント、新たにビジネスパークでの販売活動を行う。																		
当事者	聴覚障害者向けの電話リレーサービス講座や初夢祭りへの参加などを行なった。区制100周年事業への協力や啓発活動、福祉教育との連携を図る。																		
防災	被災地障害者センター横浜ほどがやの周知、区から寄付のあった多品目の防災備蓄物資の管理や使用訓練、防災研修、他部会とのコラボなどを行なう。																		
まちで暮らす	他部会と共催の事例検討、GH見学会・意見交換会、地域支えあい研修の共催、短期入所・SS情報交換会などを行ない、「まちで暮らす」を考える。																		

相談支援	相談支援のネットワークづくり、支援に活かせる幅広い情報の共有、質の高い支援のできる人材育成など、支援者が孤立せず元気になるような取り組みを行う。
こども	顔の見える関係づくり、区版の放デイ冊子の作製等を行った。児発・放デイ事業所情報サイトの開設や、ライフステージに応じた切れ目のない支援の課題抽出の仕組みを検討する。
支えあい 研修	区内の人材育成と職員同士の交流を図り人材の定着につなげる。「地域で支える集中的支援」などのテーマを予定。
お仕事 フェア	区内 11 法人・事業所が実行委員会を構成し企画・運営を行い、3/1 にフェアを実施し、48 名の来場があった。次回は 7/5 に開催の予定。

3. 全体意見交換 /15:15—15:45

●自主製品販売について

区役所とイオンでの売り上げは同じくらいだが、ビジネスパークではまだ認知度が低い。イオンの販売スペースが 1F から 2F に移動したが、福祉のよろず相談が近接するため相談がしにくくなった。

●虐待防止研修について

ゆめの研修に小規模で自前の研修が持ちにくい他事業所などの参加も可能にする。

●まちくら部会の強度行動障害ワーキンググループ、N・H・K連携事業について

いずれも地域の体制づくりとして、強行の人を支えたい事業所の輪を広げたい、入所者の地域移行・定着に向けて入所を知らない人と地域を知らない人とで情報交換を行った。

●自立協への参加について

株式会社では自立協への参加については営業以外のメリットがないからと上から否定的に言われてしまうが、ある自立協から表彰状をもらってから 27 店舗全てが自立協に参加するよう言われるようになった。他事業所の人と自撮りした写真をたくさん貼ってネットワークを可視化している。

●家族会に加入していない人への情報伝達について

家族会として自立協に参加しどの部会でも勉強になっている。家族会に参加していない人がたくさんいるが、どうしたら情報が届くようになるか、支援につながるか

●相談支援の協働体制について

相談支援の協働体制の取組は 4 区にあるが、自立協の部会から作ったのは保土ヶ谷が初めて。報酬が上がり経営も安定、ひとりで悩まず各々の専門性を共有しやすい。バックアップ体制ができたことが利用者の利益につながっていく。

4. 自立協ホームページの件（基幹 田村より） /15:45—16:00

インスタグラムの更新は各部会の HP 担当者が行うなどの変更点、HP 担当者の決定などの説明。（詳細は資料を参照）

5. 拠点事業所ヒアリングの件【報告】（基幹 田村より） /16:00—16:05

- ・地域生活支援拠点の登録をしている 11 事業所のヒアリングを 12～1 月に実施。
- ・緊急の連絡は緊急用携帯や事業所の夜間人員などで対応。
- ・各法人の理念から、福祉事業として当然、自事業所を知ってもらうためなどの理由から登録している。
- ・課題としては、連絡調整に報酬がない、医療など福祉以外との連携、コーディネート機能を引き受けてもらえる計画相談や支援チームの必要性など。

- ・拠点として取れるだけ加算を取ることはそれだけ関係機関との連携が取れていることを示している。
- ・情報交換できる場が欲しい。
- ・身体障害者の入所の選択肢が少ない。
- ・強行者の地域移行・定着と人材の育成・定着については次年度も引き続き取り組む。

6. 区制100周年の件（きてん 早坂氏より） /16:05—16:10

- ・小中高校生のインタビューは記録として残ってしまうことへの懸念から学校側の反応は厳しかった。別の方法を検討して行く。
- ・障害のある人の防災カレンダーについては継続性のあるものでないと補助金の対象にならないと言われた。

7. 障害者権利条約一斉アクションの報告 /16:10—16:15

参加事業所が増えた。今後も啓発活動として周知していく。

ヤドレジとゆめの初夢まつりとのコラボ企画・ウォークラリーを行えたが、対象店舗が多く達成者は2名のみだったため次回は工夫が必要。

8. その他 情報共有等 /16:15—16:25

(区役所から)

- ・啓発グッズとしてほどぴーのイラストと自立協の名入りのエコバッグを発注
- ・3/4 防災研修の案内
- ・1/29 強行研修の報告

16:30 閉会

次回担当者会議：令和8年6月4日（木）14:00～16:30

場所：保土ヶ谷区役所地下会議室